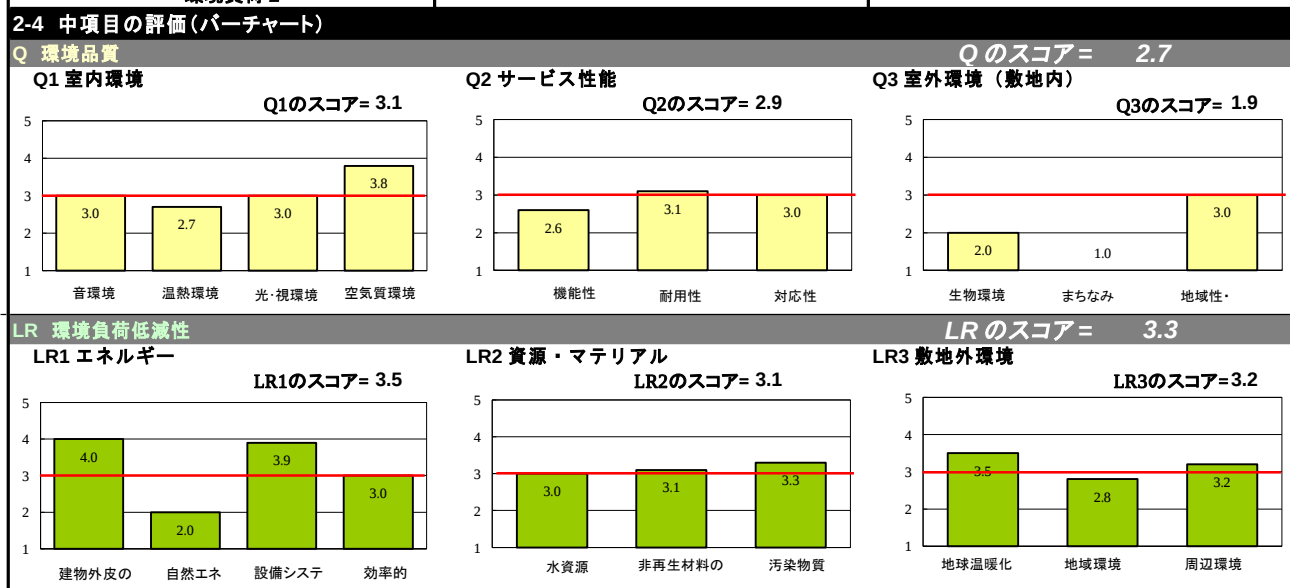
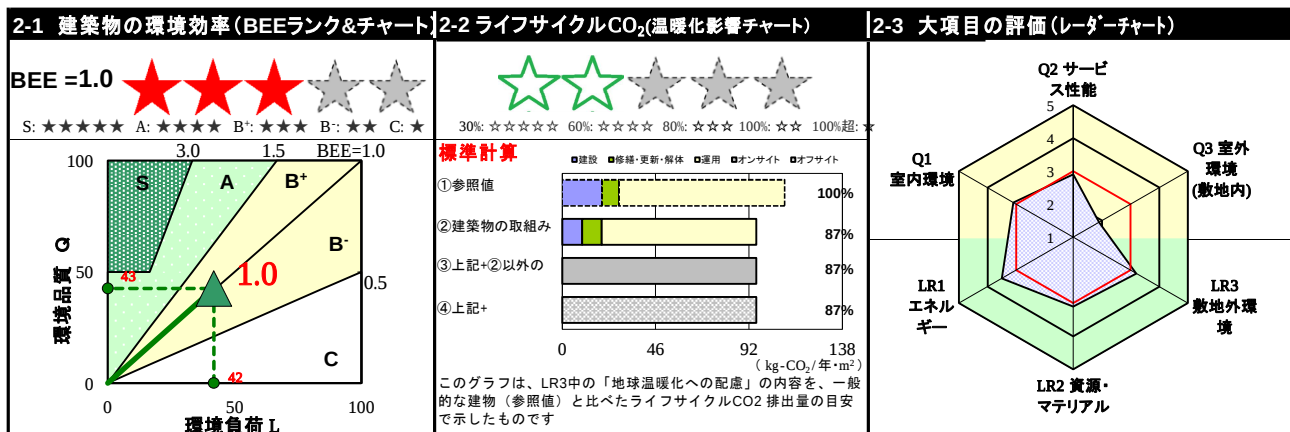


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)枚方市片鉾本町学生マンション	階数	地上6F、地下0階	
建設地	大阪府枚方市片鉾本町	構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居地域、第二種高層住居地域	平均居住人員	224 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2025年8月26日	
敷地面積	2,649 m ²	作成者	株式会社ダイシン建築設計事務所	
建築面積	1,288 m ²	確認日	2025年8月26日	
延床面積	6,158 m ²	確認者	株式会社ダイシン建築設計事務所 上西 賢	



3 設計上の配慮事項		
総合 自然換気可能な開口部を各住戸に設置し、建物利用者の快適な生活環境を維持するための開口部の遮音性能を高め、室内の安全性の面からF☆☆☆☆の内装材を採用した		その他 特になし
Q1 室内環境 F☆☆☆☆の建材を使用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避するための開口部の遮音性能を高め、室内の安全性の面からF☆☆☆☆の内装材を採用した	Q2 サービス性能 耐用年数の高い外壁仕上げ材や配管を使用している。 十分な耐用年数の配管の使用等により、建物の耐用性に配慮している	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に可能な限り緑化を行い、室外環境の向上に努めている。
LR1 エネルギー 設備システムの高効率化に努めている。	LR2 資源・マテリアル 節水コマやリサイクル資材を採用し、資源の保護に努めている。	LR3 敷地外環境 特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)枚方市片鉾本町学生マンション計画						
建設地		大阪府枚方市片鉾本町						
用途／区分		集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	断熱性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					4	
④	エネルギー消費性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					1	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外				評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

エネルギー消費量の報告				対象外
-------------	--	--	--	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.5	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	3.9	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		